

本校の校歌に「地平萌黄に芽ぶくとき」とありますが、草花の新芽が土から顔を出す今の季節は、新しい生命の息吹と春の訪れを感じる事ができます。

この佳き日に、同窓会長 福田謙一郎（ふくだけんいちろう）様、PTA会長 樋口知子（ひぐちともこ）様、学校評議員で高崎市立高南中学校 校長 伊藤尚毅（いとう なおき）様、同じく学校評議員で前PTA会長 小林淳（こばやし あつし）様、同じく学校評議員 同窓会副会長 杉山英一（すぎやま えいいち）様を始め、多くの御来賓と保護者の皆様方の御臨席を賜り、群馬県立高崎高等学校第三十七回卒業証書授与式を挙行できますことは、私ども教職員一同の大きな喜びであり、心より厚く御礼を申し上げます。

ただいま、卒業証書を授与いたしました第三十七期、百五十五名の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんが所定の課程を修了し、本校を卒業することはこの上ない喜びであります。そして今日までお子様を様々な面で支えてこられた保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

卒業生の皆さんを本日送り出すにあたり、やはり避けては通れないものは、新型コロナウイルスにまつわる数々の試練であったと思います。高等学校入学者選抜から始まり本日に至るまで、皆さんの高校生活の丸々三年間は、新型コロナウイルスによって様々な制

約を受ける日々となりました。マスク着用と検温、アルコール消毒、入学直後の三カ月にも及ぶ臨時休校、高校総体をはじめ各種大会の中止や縮小・延期等、数えればきりがありません。本校の学校行事も大きな影響を受け、皆さんの修学旅行の行先は、予定されていた沖縄ではなく、北陸方面へと変更され、日程も短縮されました。

しかし今年度に入ってから、感染予防対策を講じながら、いくつかの学校行事、特に第十三回青翔祭を開催できたことは、皆さんにとっては苦勞して一つの学校行事を成功させた成果であり、保護者の皆様にとっては我が子の高校時代を彩る思い出ができた喜びであり、そして本校職員にとっても、生徒をサポートしつつ一つの行事を作り上げる経験が得られた、という大きな意義がありました。他校では一般公開せず内部開催に留めたという話を伝え聞くと、本校では来場者数に制限を設けながらも実施できて本当に良かったと思えるものでした。この青翔祭は生徒諸君の内に秘めたるパワーが炸裂し、各所の企画において素晴らしい盛り上がりを見せていました。そしてその盛り上がりを牽引していたのが、三年生である卒業生の皆さんであつたと思います。

その時皆さんは、どうすれば来場者に喜んでもらえるか、楽しんでもらえるか、ということ考えたはずです。この「考える」・「思考する」ということは、

とても大事なことです。何故ならば皆さんは、自ら問いを設定し、その問いに答えていくという非常に高度な知的作業を経験したからです。

今では当たり前となったアルコールによる手指消毒ですが、実はコロナ以前から大学病院などの施設において、入り口に感染症対策として設置されていました。しかし実際に消毒する来院者は当時は僅かでした。医師達は、どうすれば手指消毒をする人が増えるのかという問いを立て、ある仕掛を施したところ、消毒する人が増加に転ずる結果となりました。

皆さんは「真実の口」という古代ローマの遺物を知っているでしょうか。神の顔をかたどったもので、偽りの心がある者は、手を抜く時にその手首を噛み切られる、あるいは手が抜けなくなるという伝説を持ち、映画「ローマの休日」で一躍有名になりました。大阪大学付属病院は、口の中に手を差し込むと消毒液が噴出する仕組みの「真実の口」のレプリカを作り、これを入り口に設置したのです。

他の人に自分が目的とする行動を取るように促す仕掛けを考える学問を「仕掛学」と呼びますが、大阪大学付属病院はこの「仕掛学」を用いて問題を解決しました。なお「仕掛学」には三つの要件があるそうです。一つ目は公平性、誰も不利益を被らない、二つ目は誘因性、興味を引いてもらえるかどうか、三つ目は目的の二重性、病院側と来院者で異なる目的を設定す

ること、つまり病院側は消毒、来院者は遊び心の發揮。「真実の口」の仕掛けを考えた病院の人は、ワクワクしていたのではないでしょうか。来院者が面白がって消毒する姿を見た時は快哉を叫んだはずです。もし失敗していたとしても、それは悔しいことですが、失敗の原因を探るといふ新たな思考のチャンスが生まれた瞬間になっていたはずです。是非、これからの人生において、卒業生の皆さんは様々な場面で自らの問いを立て、その解決に向けて思考を続けていってください。そして時には「仕掛学」のように遊び心を持ちながら、思考してください。学ぶこと、考えることは喜びであり、楽しみであり、生きていることを実感することでもあります。

結びになりましたが、保護者の皆様、三年間にわたり本校の教育活動に多大なご理解とご協力をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。本日にあって下さり、誠にありがとうございました。本日をもってお子様は卒業いたしますが、今後も「高東」へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に卒業生の皆さんの今後の更なる飛躍と活躍、そして幸多き人生を送られることを願って、本卒業証書授与式の式辞といたします。

令和五年三月一日

群馬県立高崎東高等学校

校長 関口 俊邦